

A÷BでもB÷Aでもどちらでも求められる。しかし、式は正解なのに答えを間違えるということは、計算結果の判断を間違えたということになる。「計算の結果何が求められるのか」の吟味がたりない。

1年生からの算数の学習において、児童は、「算数の問題は、数字をたしたり、ひいたり、かけたり、わったりすれば答えがでるんだ。」という意識がいつの間にか植えつけられてしまっていないだろうか。なぜ、その計算で答えが求められるのか、常に式の意味を吟味する習慣をつけさせたい。

(3) 「量の単位と測定」について

この単元は、「量と測定」の領域の単位に関する6年間のまとめである。単位の換算は、6年生になって初めて学習するものではない。単位については、第2学年から学習する。しかし、各学年とも定着率は悪いようである。いろいろな単位があり思考を混乱させているようである。2年生でm, cm, mmを学習する。1m=100cm, 1cm

=10mmなので子どもたちが混乱してしまう。例えば、1m=10cm, 1cm=10mmであれば混乱も少なくなると考えられる。

6年生としては、単位を体系付けて理解させたい。一つには、単位の記号には意味があること。二つには、単位は十進構造になっていることである。

キロ (k)	ヘクト (h)	デカ (da)	基準の単位	デシ (d)	センチ (c)	ミリ (m)
1000倍	100倍	10倍	1	$\frac{1}{10}$	$\frac{1}{100}$	$\frac{1}{1000}$

上の表から、単位の意味や十進構造がよくわかると思われる。もし、1dmを使えば1m=10dm, 1dm=10cm, 1cm=10mmとなり、2年生の混乱も少なくなるとと思われる。6年生には、このような話を交えながら、単位の意味を知らせる。また、この単位の並びを「キロキロ (k) とヘクト (h) デカ (da) けたメートル (m) がデシ (d) に追われてセンチ (cm) ミリミリ (mm)」などと唱えると児童は、おもしろがって口ずさみ、いつの間にか覚えて

表2 第6学年 年度別・単元別正答率および折れ線グラフ

領域	単元名	57年度	59年度	61年度	63年度	平均	合計 (平均)	折れ線グラフ (%)			
								57年度	59年度	61年度	63年度
数と計算	分数のかけ算	91.1	91.4	91.0	93.9	91.9	85.0	○	●	○	●
	分数のわり算	96.4	86.4	78.1	80.2	82.8		○	●	○	●
	分数の計算	63.7	69.8	77.6	79.7	72.7		○	●	○	●
量と測定	量、単位、量との関係	90.4	90.3	89.1	89.5	90.0	67.7	○	●	○	●
	量の単位と測定	61.5	69.3	67.3	75.9	67.7		○	●	○	●
図形	対称な形	86.7	92.6	92.6	91.7	90.7	87.5	○	●	○	●
	拡大図と縮図	74.0	64.5	74.3	79.8	74.1		○	●	○	●
	立体	84.3	87.2	94.4	94.2	91.4		○	●	○	●
	平面図形とその関係	87.1	89.9	89.0	96.9	90.9		○	●	○	●
数量関係	比と比の値	76.5	81.2	90.0	88.4	83.1	87.1	○	●	○	●
	比例	82.5	86.7	87.6	88.2	86.2		○	●	○	●
	反比例	82.7	74.4	88.8	89.6	83.8		○	●	○	●
	いろいろなグラフ	87.1	80.2	85.2	91.9	86.2		○	●	○	●
	資料の調べかた	82.3	88.5	92.3	93.3	89.0		○	●	○	●
場合の数	94.8	90.4	93.7	95.5	93.8						